

地域県民フォーラムの概要

【参考資料2】

県民局名		神戸生活創造センター	阪神南県民局	阪神北県民局	東播磨県民局	北播磨県民局
フォーラム名		神戸地域県民フォーラム	"参画・協働"阪神南地域県民フォーラム	阪神北県民局ふれあいフォーラム	"参画と協働"東はりま県民フォーラム	"参画と協働"地域県民フォーラム
フォーラム日時		9月21日 13:00~15:00	10月11日(土) 13:00~16:00	10月5日(日) 10:30~12:30	11月8日(土) 13:30~16:00	9月13日(土) 13:30~16:30
開催場所		三木ホースランドパーク	アルカイックホール・ミニ(玉翔の間)	川西アステホール	明石市産業交流センター	やしる国際学習塾
参加者	人数	100人	60人	240人	200人	350人
実施内容	講演者	小西委員	遠水委員	遠水委員	小西委員	山下委員
	主な内容	プレゼンテーション及びグループ討議	講演及びグループディスカッション	講演及び意見交換	講演及びパネルディスカッション	講演及び意見交換
意見件数		67件	38件	76件	51件	6件
主な意見		<p>参画の仕方でも様々な方法がある、幅広い考え方が望ましい。 地域づくり活動の事例を視察したり、ビデオなどで深く知ることができる機会があればいいと思う。 「知る」ことから全ては始まり、進められていくと思う。子どもから高齢者が気軽に一緒に考え、話し合える場が必要である。 地域づくり活動を定着させるためには助成を2~3年程継続させることが重要である。 既存の団体、組織等を活性化させることが必要である。 地域づくり活動の呼びかけを新聞、広報紙などに地域ごとに掲載してほしい。 関係者間の横のつながりを強化し、広く参画を呼びかけることのできる体制を作らなければならない。 多様な団体に呼びかけて、推進体制を強化していくことが重要だと思う。県政モニターなどを通じて、県民の生の声をくみ上げる努力をしてほしい。 県民と県行政との関わりが指針・計画で明示されたとしても、それが市民と市政にどんな影響を及ぼすのか分かりにくい。</p> <p>・・・趣旨を生かし盛り込んだ意見</p> <p>・・・その他(事業実施上の課題・感想等)</p>	<p>地域づくり活動への参加・関心を高めるために地域の歴史を見直すことが必要である。 地域づくりを行っていくためには、行動が大切であり、一歩先に進んで自分からみんなで一緒にやるうよと言うことが大切である。 地域の課題を解決するには、まず地域資源調査をし、そのデータを新しい地域づくりのベースにすべきである。公共空間づくりは、管理を市民の手にゆだねることでその地域の「らしさ」が生まれる。 地域づくり活動の拠点として、公民館を有効活用するべきである。たとえば、そのための推進員制度を導入することなどが考えられる。 自治会、育友会、その他の地域団体などで、互いに情報の共有・交換を図ることが必要である。 地域づくりをする上では、行事を実施することも大切だが、地域全体で取り組む共同作業が大切である。その中で生まれる「気づき」が地域の取り組みを一層効果的なものとする。 地域のさまざまな組織を束ねる拠点のようなものを作ってほしい。 活動に対する評価を必ずしなければならぬ。振り返って、良かったことは進め、悪かったことは改善して進めていくことが大切である。</p>	<p>県、各市町との役割分担をもっと考えるべきである。 地域の人材を発掘するために、新たな人に参加してもらえようイベントの開催、誰もが集い話し合いができる場所が必要だ。 ボランティアプラザを地域づくりの活動拠点として活かさなければならぬ。 県の支援を受けるための申請手続きできるだけ簡単にしていだきたい。 「指針・計画」を、一般の人々に浸透させ、県民と行政との距離が小さくなるように、小さなグループでの懇談会など、身近なところで話をしてほしい。 個人が行政に対し、気軽にアイデアを提案したり苦言を言うところを、地域につけてほしい。 行政の人々が一市民としてボランティアを経験し、地域に参画するのが良いと思う。 「こういう風に進めていくところなる」という目標のようなものをもっと計画の中に入れていってはどうか。 県が何を、とか県から見た何々、ではなく、県民が活動する・考えるという視点が必要である。 「指針・計画」の推進については、まず市民に関心のある分野から取り組んでいくべきだ。</p>	<p>世の中をよくするためには、一人のできるものは一人で、グループでないといけないものはグループでと、一人ひとりが考えて取り組んでいかなければならない。 多様なニーズに対応できるように地域と行政が手をつないでやっていくことが重要である。 住民が地域のことに関心を持つことが大事である。自分でそこに足を運んで課題に気づき、調査して実践することで地域への愛着心が出てくる。 コミュニティが基本である。そこに集まり、語らい、ともに作業することが参画・協働につながる。 参画と協働による地域づくりに取り組むためには、花のある散歩道、安心して暮らせるまち、安ぎのある広場など住民の興味のあるテーマを取り上げることが大事である。 高齢化が進む中で、これまでどおりため池を管理する継承者が育っていないので、地域外の人を取り込むことが重要である。 私たちの実践している地域づくり活動は、シニアの生きがいづくりにもつなげられる。 NPO法人なので資金が厳しいが、できる限り賛同してくれる会員を増やしていきたい。 行政施設を貸す時にNPOには低料金にするなどの支援を考慮してもらえないか。 行政窓口の職員は参画と協働をよく認識し、県民の立場にたって相談に乗っていただきたい。</p>	<p>地域づくり活動をする人が最も気を付けなければいけないこと、心配りをしないといけないことについて教えてほしい。 休みが多くなったのに外に出ない子どもや、その親とも、同じ地域社会の一員として交流したい。 活動をしていて、住民の視点と行政の視点がずれていると感じる。行政の思い通りに住民が動くのが「県民の参画と協働」ではない。 行政の窓口、私たちの質問や相談に答える人が、どれだけ活動の現場を知っているかということが重要である。行政と住民がどの点で、どのように連携できるかという具体的な案や例を多く出して考えていただきたい。</p>

県民局名		中播磨県民局	西播磨県民局	但馬県民局	丹波の森公苑	淡路県民局
フォーラム名		県民の参画と協働の推進中播磨県民フォーラム	"参画と協働"西播磨地域県民フォーラム	但馬地域県民フォーラム	'参画と協働'たんば推進フォーラム	淡路地域県民フォーラム
フォーラム日時		10月29日(水) 14:00~16:00	10月18日(土) 10:00~11:30	9月13日(土) 12:00~16:00	10月29日(水) 13:30~16:30	10月28日(火) 13:30~16:00
開催場所		姫路市自治福祉会館	龍野経済交流センター2階セミナー室	豊岡市民会館文化ホール	丹波の森公苑	みくまホール
参加者	人数	230人	110人	900人	110人	130人
実施内容	講演者	山下委員	小西委員	小西委員	小西委員	小西委員
	主な内容	講演及び意見交換	講演及び意見交換	講演及びパネルディスカッション	講演及びグループディスカッション	講演及びパネルディスカッション
意見件数		69件	34件	103件	39件	36件
主な意見		資料の中で、「市町と県は対等、協力関係」とあるが、市町の希望を聞きながら県全体の大局的見地から「美しい兵庫」づくりを企画するのが本当ではないか。地域づくり活動の活性化には、まずは人づくりが基本であり、活動に無関心な人たちが地域づくりに参画してくるような支援事業を積極的に企画してほしい。参画協働についても、声なき人の意見をどう汲み上げるかを検討すべきである。地域づくり活動リーダーの共通の課題は、後継者づくりである。参画と協働の理念は従来から地域で育まれ、時代とともに成長してきた。今後の課題は、地域の各種団体の自立及び幅広い連携協力が得られる体制の維持増強である。地域にある活動団体をどれだけ組織化できるかが重要である。地域で活動している団体を紹介してほしい。行政窓口を明示し、相談・連絡体制を強化することが望ましい。農村部のコミュニティでは共同体の運営に住民の全てが、それぞれの役割を担っており、県もこの共同体の仕組みをもっと調査し、何故そうしたコミュニティが成り立っているのかを学ぶべきである。21世紀の地域づくりは、「県民の声を生かした活動」が大切であり、「やる気のある人たちの新しい発想」を生むような工夫が必要である。	市町でも、県の情報が得られるようになれば、大変幸いである。地域づくり活動は、楽しく進められることが大事であると考え。子どもの大胆な発想が、まちづくりのアイデアとなる。実際に事業を行ってみて、自分たちでもできるんだと思った。子どもだけでなく、親、祖父母など多様な世代が参加できるまちづくりのアイデアにつなげていきたい。地域づくり活動を温故知新から温故創新に発展させる取り組みに発展させるともっと素晴らしいと思う。地域づくり活動の助成にあたっては柔軟な運用をお願いしたい。情報は待っているは来ない。自分たちが外に向けて情報発信することが大切である。我々自治会の情報はホームページで発信している。新しい組織づくりとあわせて、自治会、婦人会の再活性化も必要である。	地域の活力は住民一人ひとりによって、コミュニティの中での積極性によって形成されるのではないかと。地方に活力をよみがえらせるのに重要なのは、わが地域を心から愛せる地域づくりである。まず活動する自分が楽しんで、それを周りの人に示し、継承していくことが重要である。それぞれの活動の実情にあったアドバイスや指導が求められる。参画と協働に関してのノウハウがなくても、それを学ぶ段階からやっていこうという団体でありたい。人をどのように引きとめて、もっと多くの人を引き入れるか、どうすれば活動を継続していけるかということを考えないといけない。全く初めての人に自分たちの活動の話をどのように分かってもらって、参画してもらおうかということが非常に難しい。地域の伝統や文化を保存し、それを活かすような活動をしなければならぬ。活動する自分たちで運営し、利用できる交流会館のようなものがほしい。活動を継続していくための活動費の問題がある。多くの人から会費を集めて参画していただきたいというのが非常に難しい。活動を知らない人知ってもらってPR活動に協力してほしい。行政がボランティアについてもっと理解し、意識を高めないといけない。県職員も地域をまわって団体の活動を実際に体験し、現場の勉強をしてほしい。	参画と協働に関する職員の意識の醸成に関して、県のみならず市町職員の意識の昂揚が必要である。世代間を超えた参画と協働のツールを考えるべきである。もっと参画と協働についての研修等を開催して欲しい。「指針・計画」よりもまず、参画と協働の推進に関する条例を根付かせることが必要である。参画と協働の知識を各団体の長が持ち帰り広めていかないといけない。「条例」の理解が不可欠。折に触れ、具体例を用いた「勉強会」を行う必要があると考える。勉強会については市町単位、年齢を問わない形で行うのが望ましい。参画と協働を県民一人ひとりに理解してもらうために、具体的な例や絵を活用して、分かりやすい指針・計画を作成してほしい。	県民と県民のパートナーシップをとりながら、県民と県のパートナーシップをとるしくみが必要である。行政にしかできないこと、民間にしかできないことがある。両者の接着剤となるのがNPOの役割であると考え。参画と協働における行政とは、当然県が主体になると思うが、実行段階では各市町との連携が必要となってくる。そこで、市町と県の役割をある程度明示すべきだと思う。参画と協働で重要なのは、市町の役割分担である。市町にも県と同じ歩調で進めてもらう必要がある。県民が行政に要望などを行うための明確なシステムも確立していただきたい。許認可事務について意見も通りやすくなったが、一層の努力をお願いしたい。淡路地域は他の地域と比べても違うところが多くあり、参画と協働の条例についても、その地域性に沿った形で活用していく必要がある。参画と協働を進めていく上で、自らの取組みを自ら評価するのではなく、外部評価により判断していくのが望ましい。